



仙台いのちの電話

相談電話 **022(718)4343**

インターネット相談 <https://www.inochinodenwa.org/>

いのちの電話ネット相談

検索

フリーダイヤル **0120(783)556**

(毎月10日)

ナビダイヤル **0570(783)556**

24時間受信
年中無休



絵画：「馬頭琴奏者」専門委員 國分振氏
馬頭琴の調べを聴きながら「スーホの白い馬」を思い浮かべました。

プロのボランティアを

目指して

梁川 優子

昭和六十年に相談員として認定を受け、ずいぶん長い間お世話になっていました。

養成講座で人間関係基礎訓練という名の感受性訓練に出会い、自己理解や他者理解を深める中で、多くの先生方や相談員、そしてグループ活動での貴重な出会いがあり、たくさんの気づきを得ることができました。

生きていくと、予期せぬ危機に出会うことがあります。もがき苦しむ中で再生の光を見出す力を得たのは私に関して言えば、もしかしたら「いのちの電話」での活動のおかげかもしれません。

人はひとつの人生しか生きられません。その人生が日常であるなら、「いのちの電話」はある意味で非日常の世界にあります。かけ手も受け手も匿名での一期一会の相談電話ですが、かけ手の人生に触れる瞬間でもあります。たとえ短い時間であってもかけ手の「今、ここで」に耳を傾け、かけ手の言葉の奥にある思いを受け止めるために、いつも感受性を磨いておく必要があります。温かな優しさとしなやかな強さを併せ持つ相談員は、かけ手に鍛えられながら感受性を磨き、人間力を育んでいるのです。

これからも「良き隣人として 話し相手になる」というサマリタンスの精神を軸にプロのボランティアを目指して共に研鑽を積んでいきましよう。

(元相談員、元ボランティアリーダー)

仙台いのちの電話専門「委員」

相談員自らの意志で立ち向かおう

仙台いのちの電話

専門委員（公認心理師・臨床心理士） 佐藤 智昭



最近自殺^{ほうじょ}幫助のニュースが立て続けにありました。どう対応したらよいかを①セリフと②殺し屋との関係性からヒントを引き出しましょう。

①「殺してほしい」と願う理由は何か、セリフがヒントになります。「死にたい」けど「死ねない」から「殺してほしい」、つまり「死にたい」願望がある=いのちの電話の対象だということです。

次に、②話の主題を抜いて関係を見ましょう。「○○するのを助けてほしい」「○○するのを助けてほしい」という関係になり、主訴は「助けてほしい」となります。ただ、私が考えるこの関係の危うさは、叶えてもらう、叶えるになってしまっているところです。

なので、我々はこうならない関係を築くと良いでしょう。答えはいのちの電話の目的に書いてあります。「援助を求めていた人が、その危機を克服し、その人自身の自由において、新たに生きる勇気を持つに至ること」、つまり叶えるのは本人だということです。そして、私が考える目的達成法は「援助する人=相談員が、相談で陥る危機を克服し、相談員

自身の自由において、新たに相談に立ち向かう勇気を持つことだ」と確信しております。

今回の事例でも「どう関係を築いたらよいか？」と途方に暮れることもあるでしょう。しかし、この感覚こそが関係構築のヒントです。きっと、かけ手も「どう関係を築いてよいか？」と途方に暮れている、つまり、一番気持ちがわかるのは他ならぬ相談員のあなただと、私は信じます。このように共感・理解した上で、それでもあきらめない！と勇気をもって立ち向かえば、羅針盤が現れ、その指し示す方向に関係が自ずと築かれていくと思います。羅針盤は腹の底。以上『個人の感想』です。皆様はいかがお考えになりますか？

佐藤 智昭 (サトウ トモアキ)

昭和45年生まれ 52歳 (岩手県盛岡市出身)

臨床活動 公立・私立スクールカウンセラー、専門学校非常勤講師、大学非常勤講師
(22年間) 民間企業心の健康相談社外顧問、開業相談、仙台市・私立学校教員研修講師、
ワークショップ講師、葛藤解決と組織変容ファシリテーターなど。

想い



ネット相談員になって

まずは、やってみよう

初め、私はネット相談に懐疑的であった。対面ですら、五感さらに第六感まで感覚を研ぎ澄ましても解らない場面が多々ある。電話は声が聴けるし気配が伝わる。手紙は筆跡があるので、その分メールより書き手の情報が少しは入ると思う。

メールは文章・行間だけで書き手の心情を洞察する。綴られていることから、相談者の悩みや問題点の根っこにあるものに気づかせることができる返信文を、自分の語彙力・拙い文章力で表現が出来るだろうか。と、いう思いがずっとあった。

だが、ネットの世界でしか、自分を表せない人がいるのも事実だ。やってみなければ判断できないというのが私の信条なので、まず、受講し認定を受けネット相談員となった。

この間、3回目の返信文を出した。専門の先生にどこまで添削されて相手に届くのか、ハラハラドキドキ送信したのだが殆ど直しの文章を送ってくださりホッとした。

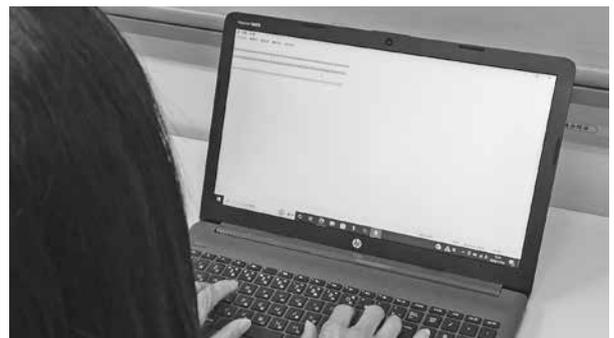
そして今は、相談者が自分の心の内を文章にすることにより整理でき、それを受けた相談員は、文章を繰り返して読むことで、冷静に返信文作成ができることが、ネット相談の利点と感じている。(T・K)

電話との違いに目からウロコ

ネット相談員一年生。新入生として初心を大事にして担当へ入っています。

同じ目標に向かい仲間と勉強するのも久しぶり、どこかワクワク感がありました。東京の先生とのリモートを使っの学びも新鮮に感じられ、そこで実感したのは電話とネットの違いです。これは目からウロコでした！

電話は一瞬、一瞬をとらえ対応していましたがネットは文章。阿吽の呼吸は伝わらない(涙)



2022いのでんマルシェ開催

多くの方々に助けられて

2022年10月2日（日）午前10時～午後3時まで、サンモール一番町藤崎前にて「いのでんマルシェ」を開催しました。

7月より準備を始めましたがコロナ禍に加え、物価上昇のこのご時世柄、物品提供いただけるのが等心配な事ばかりでした。不安な気持ちを抱えながらも、多くの方々に助けられて一歩ずつ準備を進め、開催することができホッとしています。

当日は、新調したばかりのピンクののぼりがはためく会場で、後援会役員4名、仙台泉ロータリークラブさん5名、清月記さん3名、いのちの電話23名の総勢35名の参加があり、最後まで立ち通して活動いただきました。

寄せられた商品は、食品（お菓子、米、調味料、



麺類等々）、飲料水、生活雑貨（BOXティッシュ、食器、電化製品等）、鉢植え等と様々で、終了を予定より30分延長し3時までとなりましたが、どのブースも終始来場者が途切れることなく、世代・性別・国内外問わず大勢の人に立ち寄っていただくことができました。昨今の物価の値上がり背景にあるのか、市価よりかなり安く購入できたと、嬉しそうに買い物をされていたようです。

商品もリズムカルにテンポよく売れ、販売ブースに補充を出しても出しても、お菓子類や麺系は早々に完売、気づけば畳んだ空段ボールが背丈を超えて山積みになっていました。大小様々な空箱の後片付けや、元気な声での通行人への声がけもいただき、全員で売り上げを伸ばすことができました。

無事終了した今ふり返ると、ここに至るまでには、心良くとくさんのご支援ご協力をいただいた各企業様や、貴重な休みを返上しボランティアでお手伝いいただいたスタッフの皆様、準備の段階から随所に細やかなお心配りをして頂いた菅原後援会会長には感謝の気持ちでいっぱいです。

今年は報道関係の方も取材にきて、新聞掲載やテレビのニュースでも取り上げていただきました。これを機に「いのでんマルシェ」を通じ一人でも多くの方がいのちの電話の活動に賛同していただけることを願っています。（事務局 後援会担当 A・N）

販売応援の感想をいただきました

仙台泉ロータリークラブ

去る10月2日、仙台泉ロータリークラブの有志と共に、いのでんマルシェのお手伝いに参加いたしました。当日は好天に恵まれ、会場となった一番町商店街へも沢山の人の往来があり、マルシェにも多くの皆様にお越しいただきました。私自身昨年に続き2回目の参加でしたが、昨年以上にチャリティーバザー、募金のご協力とご支援そして激励の言葉を掛けていただくなど、参加したメンバー一同とても充実した機会となりました。これからも仙台いのちの電話の活動を支援し、また多くの方にご理解をいただけるよう協力をしていきたいと思えます。（三浦 一様）

清月記

バザー会場にて、販売のお手伝いをさせていただきました。二十数年の人生の中で、チャリティーに関わった経験は今回がはじめてになります。バザーを通して関わったスタッフの方々の姿から、熱意をもって取り組まれていることを感じました。また、販売中は立ち寄られた方から「なんでバザーをしているの？」と質問を受ける事が何度かあり、こういった活動を通じて関心の輪が広がっているのだと実感しました。私もチャリティーのお手伝いを通していのちの電話について知る事が出来ましたし、今回少しでも力になれた事を嬉しく思います。（佐藤 まゆ様）

相手のことを理解するためには、こちらの勝手な解釈はいらないんですね。質問の必要性を実感したのと、相手の立場を考える想像力。ネット相談の返信は3回にわたり行われ、一人の相談員で関わるのではありません。その分一人でやっているわけではないと意識します。

コロナ禍で人との距離が広がりましたが、人間はやっぱり人間が必要なんだなという思いで精進していきたいです。（K・M）

丁寧な言葉遣いの難しさ

以前からネット相談に興味があり研修に参加しました。電話よりメールの方が身近に感じる人がいるのではないかと、メールの場合、私自身が考える時間を持つことができ、丁寧に対応できるのではないかと思いました。オンライン研修は仙台センターで受けることができました。

研修中から今まで、自分の語彙の乏しさにがっかりしています。これはネット相談に限らず電話相談でも同じだと思いますが、電話の時のように話し方・声・間などで表すことが出来ず、難しく思っています。同じ内容でも優しく感じる言葉など、丁寧な言葉遣いを心がけたいと思っています。ネット相談も電話相談と同じく、受容・共感・寄り添いが大事だと再認識しました。ネット相談も電話相談も終わってから反省する事ばかりです。

これからはネットによる相談は益々増えると思います。相談員として、私自身成長していけたらと思います。（H・S）

一期一会を重ねて、

1982年11月1日に、「仙台いのちの電話」が開局してから、今年で40年となりました。今年の10月31日までに70万7445件を受信しました。

開局前後から現在まで電話相談員としての活動をいただいている方々にお集まりいただき、活動の原点を振り返っていただきました。

司会は広報委員長のS・Hさん（以下司と略）、参加されたのは、

仙台いのちの電話の礎を築き、現理事でもあるD・Kさん（以下D）、第2期の昭和58年から相談員のS・Kさん（以下K）、第6期昭和61年から相談員S・Tさん（以下T）、第7期昭和62年から相談員A・Cさん（以下C）。先輩の聞き手として第46期相談員のS・Yさん（現相談員の会役員、以下S）が参加されました。開局当時の相談室の環境や、長い活動に対する深い想いを伺うことができました。（事務局）

開局40年をふりかえって

司：40周年に向けての企画の一つとして、仙台いのちの電話が開局された当時を知る方々にお集まりいただきました。まず、参加の皆さんから自己紹介を兼ねて一言ご挨拶をいただきます。私は2010年、大震災の前年に相談員となりました。今日は広報委員長として本日の進行役をいたします。本日は「温故知新」「不易流行」の言葉通り、皆さんの話されるお言葉の中から、変えてはいけないもの、そして、新しい何かを見つけだせればと思います。最初に自己紹介をお願いします。

<自己紹介と挨拶>

D：卒寿を過ぎてしまいました。しばらくぶりですが皆さんにお会いできてうれしいです。現代の相談活動は様々ありますが、やはり、かけ手の声を聴きながら心の動きを察知することができるのは、やはり電話ですし決して絶えることはないと思っています。

K：最初に事務局に電話した時、D先生に出会いました。当時、養成でD先生から教わった「ストーリーではなく、気持ちを聴く」ということが40年経って最近ようやく分かってきました。それで、相談員活動をもう少し続けていこうかと思っています。

T：最初、グランドパレスビル（仙台市青葉区の繁華街）にある相談室へはエレベーターと階段を使うんですが、深夜10時過ぎ、深刻な電話を聴いた後に階段を降りると、酔客やホステスさんの笑い声が耳に入り「このビルは天と地の差があるなあ」と世の中の縮図を毎回感じていました。

K：エレベーターの中では、怖い思いをしたこともありましたね。

C：当時は仕事が忙しかったのですが、その合間に相談活動をしました。いまは、3度目の仕事となっていますが、リズムが生活



とつながっています。昭和60年に受けたH先生の研修が一番記憶に残っています。これからも実際に声を聴く、電話相談を続けていこうと思っています。

司：Cさんは今も少数派の男性なんですけれども、当時はいかがでした。

C：確か四、五人だったかと思いますが。養成講座の先生が男性だったので、あまり違和感を感じませんでした。

司：一昨年相談員になられたSさんはどうですか。

S：2020年9月から活動しています。皆さんのお話を聞いて、これまでつないでこられた先輩のお気持ちを聞かさせていただきました。相談員の会の役員にもなり、毎回、勉強のつもりで受話器をにぎっています。どうぞよろしくをお願いします。

<時代と共に相談も変化>

司：これまでの間にかかけ手も変わってきたかと思いますが、みなさんどのようにお感じですか。

D：時代とともに価値観が変わって

きましたね。最初の電話の悩みは生活そのものの悩みが多かったように思います。今は、価値観にとらわれないで自分を中心に起きている悩みになってきたように思います。皆さんどうでしょうか。

K：聴き方は変わりないけど、当時は小学校から高校まで、子どもからの電話もかなりありました。今は、専門の相談機関ができてかかってこなくなったけど、当初は幅広い年齢層に対応できることが求められた気がします。

司：いまは、経済関係のつらさよりも、様々な人間関係の悩みが多いと思います。

S：相談員になってみると、精神疾患を抱えている方からの電話が、当初思ったより多いのだなあと感じています。

D：昔はまさに今死にたいという電話が多かったと思いますが、今は、それに至りそうな精神状態の方の相談が増えましたね。そのような方が自殺念慮にならないよう聴くというのも、いのちの電話の活動の理念の一つだと思います。

司：精神疾患については、さまざまなメディアが取り上げるようになってから認知度が上がり、世の中全体として、疾患として理解が広まったように思いますが、当事者の身近な家族の理解という点ではまだまだという感じがします。

T：苦しそうな息遣いの女性から「死にたい」と何度も言われた時、かける言葉を慎重に選びました。深刻な悩みについては、かける言葉とかけてはいけない言葉を日頃から勉強することが大事なのだと感じました。

D：つい止めようと「死んではいけない」などと声をかけたくなくなるけど、電話をしてくること自体

40年間70万件。



が「生きたい」という意思表示だから、まず、混乱している気持ちを聴くことですよね。

司：つつい自分の価値観に基づいて考えを言葉にしまいがちですが、自分の価値観は脇において「死にたい」という気持ちを共有することが、一番ですよ。それが、なかなかうまくできないことではあります。

<開局のきっかけ>

D：40年以上も前ですが、私になぜのちの電話を始めようかと思ったのは、私自身が自殺未遂者なんです。大学1年の頃、母が亡くなって弟3人が残され、これで人生が終わりかと思って八木山のつり橋（注：仙台市太白区）から飛び降りようとしたことがあるんです。その時死んではいけないと思いとどまったのは、亡くなった母の顔が現れて「弟たちを守ってね」と言っているように感じ、思いとどまって籠に降りてきました。その後、わらじを履いた英語の恩師と再び八木山橋まで歩いて往復し、その道すがら辛い気持ちを聴いてもらったのです。そこで、死にたいという混乱した気持ちから、我に返ることができました。この恩師に支えてもらったことが、いのちの電話を始めようと思った原点となりました。そして、自殺願望の方を支えていくことが私の人生の課題ともなりました。

S：「死にたい」という電話を受けたことはあります。相談電話が終わった後、かけ手がその後どうなったのかと気になりました。

C：昔は三人で電話をとっていたことがありましたよね。二人で電話を取り一人が聞いていることがありました。今は、一人で相談室に入ることが多く、昔の方は余裕があったのかなあと感じ

ます。

K：確かに他の方の声がない分、自分の会話がしやすいということはあるんですけども、複数入っていると何かの時にアドバイスをいただくこともできるので…。

司：そうですね。実際に実行している人がかけてきた時に、相談できる人がそばにいて、対応を相談できたことがありました。

<相談員同士、経験をシェアして>

司：最近先輩にあたるボランティアリーダーが、後輩のボランティアを育てていくといった流れが出来つつあります。皆さんの経験からどう感じになっていきますか。

D：専門の先生と受講者という関係もありますが、経験豊富な相談員が先生から学んだことを生かして、相談員に不可欠なものを体得し次の世代に伝えていく、ということはすごく大事な事ですね。

相談員の悩みに対しては、同輩でも先輩でも相談員同士で解決できるのではないかと考えています。

K：先輩としてグループなどで後輩を育てるというよりも、お互いに自分自身も成長していくことが大事だと思っています。

D：そう、先輩としての経験を後輩に仲間としてシェアしていくことが大事。

司：相談員を長い間してよかった、ということをお聞かせください。

C：自分の経験と重なるような相談を受けた時、ああ、そういうこともあるんだ。と、こちらが安心したりすることもある。どちらが相談者が分からなかったりして。また、グループ活動で専門性のある研修内容だったりした時も、良かったなと思います。

S：相談電話の中で、おそろおそろ試しにこんなことをしてみたら、とお勧めしたことがたまたま解決の道筋となったことがあって、お役にたててよかったと思いました。

<何が長期活動の源ですか>

S：継続30年以上の先輩にお尋ねしたいことがあるのですが、どのようにして長い期間続けてこられたのでしょうか？



C：やはり生活の一部となってきたことでしょうか。一番辛かった時は、夜勤の仕事があったときですね。根気で乗り越えられたと思います。

T：わたしも日常生活の一部となっていますね。これまで辛かった時などは、グループの仲間に使っていただいたんですね。学生時代の仲間とは全く違って、ほんとうに助かりました。確かに体力の衰えは実感していますが、ここでの「聴く」という活動は続けていきたいと思っています。

K：気づいたら40年やってきたという感じです。活動してきて、家族の気持ちについてより考えることができるようになりましたね。グループでの活動もいろいろな方と接することができて、支えられたという実感があります。

<辞めたいと思ったことは？>

事務局：相談員がいろいろな理由でお辞めになっていく中、これまで辞めたいと思ったことは一度もなかったのですか。もし、あったとしたらどう乗り越えたのでしょうか。

K：正直言って、辞めたいと思ったことは一度もなかったです。それはなぜかというと、お年寄りの介護をしなければならなくなったときに、夫が「親の介護があるからと言って、いのちの電話の活動を辞めないで欲しい」「決まった活動にはきちんと行ってほしい」と言うんですね。その家族の支えと協力があって続けてこられたのだと思います。

C：辞めたいと思ったのは仕事の定年を迎えたときかな。人生の中で節目を迎えた時に、活動を見

次ページへ続く→

→5ページより続く

直そうと思ったことがありました。仕事についているうちはこちらも辞めないと考えています。今も仕事をしているのでしばらくは続けていきます。

T：辞めたいと思ったことは、少しもなかったですね。最近若い女性の孤立が顕著になってきて、そんな女性からの悩みを聴いて感謝されたことがありました。

D：相談員が相談を聴いている中で、自分自身も問われているのです。電話をかけてくる人はどこかで生きていたいと考えているはずで、そこをうけ手は試されているのではないのでしょうか。長く活動できているのは、相談の中で相談者から力をいただいている…そうなのではありませんか。長い経験の中でやりがいというものを得られているからではないのでしょうか。これまで得られたものを振り返ってみるとき、生きてよかった。と私は実感するのです。

S：相談者の喜怒哀楽という本音の一部を、真摯に聴かせていただくことのできる経験をありがたく感じています。

<今後について>

司：最後に、今後の仙台いのちの電

話に望むことがあれば一言お願いします。

D：いのちの電話の活動は、自分が望めば全国的に、さらには世界的にも活動の視野を広げることができます。私にはこの活動を通じて40年以上海外との交友があります。自分の人生観を



広げることができました。つながりが世界にひろがっていくことができます。機会があればどんどん活動の輪を広げて繋がっていきましょう。

K：新しい何かというより、これまでの事を継続していくことが大事なのは。

T：これからも、学びをしていくつもりで過ごしていきたいと思えます。

C：やはり、ネットの世界になりつつある現在ですけど、電話相談はそれと共存していくようになるのではと思います。

S：どうしたら、皆さんが安心してボランティア活動ができるか、なども視野にしていきたいと思っています。

司：加えて、活動の継続に必要な最低限の健康を維持していくことが必要ですね。皆さん、本日はお集まりいただいて本当にありがとうございました。

座談会に参加して

先輩の言葉を心に留めて

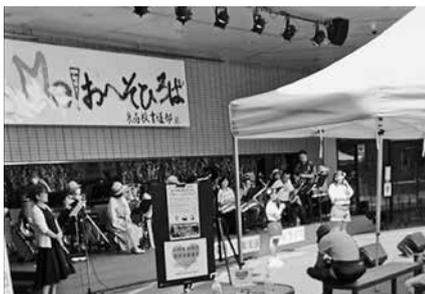
「心の中を聴けるのは電話。ストーリーでなく気持ちを聴く」先輩方の言葉が心に刺さりました。

時代とともに相談者、相談内容が変わっていくことも、「聴く」という基本は変わらない。それを実践して長きにわたり電話相談に関わってくださってきた方々と座談会という場に身を置かせていただき、本当に貴重な時間を過ごせました。ありがとうございました。(S・Y)

活動報告

(2022年7月～11月)

- 7月 2日 第49期相談員養成講座開講式
- 7月 8日 運営委員会
- 7月13日 宮城県自死遺族支援連絡会オンライン会議
- 7月20日 すみれの会ファシリテーター認定式
- 7月26日 後援会役員会・実行委員会
- 7月30日 ゴールデングループサウンズオーケストラ
チャリティライブ in 泉中央



おへそ広場で演奏するGGSOの皆さん

- 8月12日 運営委員会
- 8月30日 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム
- 9月 9日 運営委員会
- 9月17日 第49期相談員養成講座集中学習
- ～19日
- 10月 2日 後援会チャリティーバザー いのでんマルシェ
(サンモール一番町藤崎前)
- 10月14日 運営委員会
- 10月15日 日本いのちの電話連盟
インターネット相談員養成講座オンライン研修
- 10月29日 日本いのちの電話連盟
～30日 自死遺族支援実施センター合同研修会(秋保)
- 11月 3日 リフレッシュ研修
- 11月 5日 第48期相談員認定式
- 11月11日 運営委員会
- 11月24日 第8期ボランティアリーダー認定式

連盟自死遺族支援実施センター合同研修会

10月29日(土)・30日(日)、秋保リゾートホテルクレセントにて、日本のいのちの電話連盟自死遺族支援事業委員会主催の宿泊合同研修会が開催され、佐賀・奈良・千葉・栃木・仙台センターの支援員32名が参加しました。2008年から始まった合同研修会は、これまで、宿泊・日帰り・オンラインなど様々な形で行われてきましたが、5センターの宿泊研修会は、実に10年ぶりのことです。研修会の企画運営は輪番制になっており、今回は仙台センター「すみれの会」が担当しました。

開会にあたり自死遺族支援事業委員会の飯岡智委員長(仙台的のちの電話理事長)から、歓迎と日頃の活動に対する感謝の言葉に続き、「この研修会が学びの場であるとともに、リフレッシュの機会になることを願っています」と、挨拶がありました。

今回の研修会初日は、小田島佳子さん(すみれの会ファシリテーター)の講演「自死遺族の喪失」とグループディスカッション。二日目が齋藤眞先生(仙台的のちの電話研修委員長)の講演「支援員のケア」と全体会(ふりかえり)というスケジュールです。

5グループに分かれての、ディスカッションは、日頃の活動で感じていることや大切にしていることなど、支援員の様々な思いに触れ合うことを目的に行われました。各グループとも活動の様子や課題などにもおよび、幅広い話題が展開されました。

この研修会を主催した連盟の佐合信子事務局長は、「かねてから、コロナ禍での対面による活動を行っている皆さんのケアが必要だと感じていた。この二日間、皆さんの声を直に聞かせていただき、心を打たれた。この研修会がこれからの活動の活力になったなら幸いです」と結びました。

研修を終えて、参加者からは多くの感想が寄せられました。いくつかご紹介します。

- ・講演「自死遺族の喪失」を聞いて、サバイバー(生き残った人々)への理解が深まった。ファシリテーターとして遺族との関わりを考えていきたい。
- ・グループの話し合いが楽しかった。発言をすることで自分の活動を振り返ることができた。また、同志がたくさんいるということに勇気をもらった。
- ・講演「支援員のケア」の中で、セルフケアの一つとして齋藤先生が実践している具体的なコーピング(対処方法)を聞き、自分も知らないうちに実践していたのだと思い当たった。
- ・今回は、楽しみながら研修に参加でき、心が癒された。改めて意欲がわいてくる思いでした。

最後に、この二日間各センターの皆さんと貴重な時間を過ごすことができました。皆さんのご協力に感謝です。是非またお会いしましょう。ありがとうございました。(事務局 M・M)



活発な討議が行なわれたグループディスカッション

2022年6月1日～2022年10月31日受付 [敬称略・順不同]

資金ボランティア

ありがとうございます。

皆様のご支援で24時間「仙台的のちの電話」はつながっています。

維持・賛助(個人)

安石 住田 しげみ
井田 千恵子
遠藤 上 茂子
大藤 村 和子
貝山 山 美佳子
兼為 地 佳子
菊地 正剛子
小藤 林 子
今野 野 子
齊藤 啓 子
佐藤 義 子
佐佐 藤 子
新 野 勝 子
宮 幸 子

鈴木 博 朗
鈴木 藤 宏
須藤 口 和
関野 崎 子
高野 妙 子
高野 秀 子
田中 義 子
出村 善 子
永井 和 子
根岸 洋 子
畠山 東 子
松田 成 子
山 家 雪 子

維持・賛助(団体)

(株)ウジエスーパー
(株)佐々直
充国寺
全玖院
千葉神経科内科クリニック

仙台広瀬河畔教会 婦人会
(一社)宮城県精神科病院協会
桃生佛教会 奥野昭典
陽雲寺
輪王寺

一般寄附・その他(個人)

高橋 研二

一般寄附・その他(団体)

河北新報社 上期寄託金(株)厚栄社
Golden Group Sounds Orchestra
仙台ライオンズクラブ
わたしの雑貨&セラピーらべんだあ

チャリティ自販機

(株)TGサポート
(学法)宮城学院女子大学

仙台的のちの電話後援会

名雪祥代チャリティイベント
いのでんマルシェ

仙台的のちの電話

チャリティイベント会場募金
センター内募金
センター内チャリティ(クッキー売上)

いのでんマルシェ協賛企業

いのでんマルシェ協賛企業
アイリスオーヤマ(株)
(株)青葉ガーデン
一乃庵
(株)ウジエスーパー
鹿島台ガーデン
(合)亀兵商店

サンモール一番町商店街振興組合
(株)白松がモナカ本舗
(株)清月記
有限会社ゼル
仙台キリンビレッジサービス(株)
たかはしきもの工房
(株)チバ文具
有限会社東北いちば
東北観葉(株)
常盤洋紙(株)
ニコニコのり(株)仙台支店
(株)88 サービス米工房いわい
(株)藤崎
ホームセンターデザイン
マル二食品(株)
マルホン(株)
三島食品(株)東北支店
三菱鉛筆東北販売(株)
わたしの雑貨&セラピーらべんだあ
(株)渡辺海苔店

ご協力をお願い

仙台いのちの電話は多くの方々の温かい心に支えられています。ひとりの力は小さくてもたくさん集まれば、大きな力になります。いくつかの方法がありますので、ご協力をお願い申し上げます。

<ご協力方法>

- ① 資金ボランティア
・維持会員（個人）年間1口1万円 （団体）年間1口3万円
・賛助会員（個人、団体）金額、時期は自由
- ② 仙台いのちの電話支援募金カン設置（募金カンの用意がございます）
- ③ 後援会主催のチャリティイベントへの参加（チケット購入、マルシェ等）



お振込先

（郵便振替） 02210-5-2449 社会福祉法人 仙台いのちの電話
（銀行振込） 七十七銀行 旭ヶ丘支店 普 5260051
社会福祉法人 仙台いのちの電話 理事長 飯岡 智

2023年
開講予定

第50期相談員養成講座受講生募集（予定）

～悩む人々、孤独にある人たちの良き隣人として
ボランティアを始めてみませんか～

応募資格：22歳以上の方で心身共に健康で、「いのちの電話」の趣旨に賛同し、月2回以上のボランティア活動及び、相談員認定後の所定の研修に参加できる方。

募集詳細：応募方法、募集期間、定員、研修費用、研修会場、面接日などは決まり次第ホームページ等でお知らせします。

お問い合わせ

社会福祉法人 仙台いのちの電話 事務局（月～金 10時から17時）
TEL 022-718-4401 FAX 022-718-4431
仙台いのちの電話ホームページ



編集後記

「仙台いのちの電話」開局40年の記念すべき時を、3年にも亘るコロナ禍で、何一つお祝いらしいことも出来ずに令和4年も暮れようとしています。

広報紙だけは休むことなく続けることが出来ました。今号は40年を振り返り、創立当時から今もご活躍の相談員、携帯電話時代に入った相談員の方々と、座談会を開催させて頂きました。「温故知新」、「不易流行」をお話し頂き、ロンドンから始まる、電話相談の神髄に迫ってみました。時代や、相談ツール、医科学会の目覚ましい発展・発達がありますが、「いのちの電話」の人に寄り添い、傾聴、共感、わかち合いの心の精神は、今も微動だにしないと確信を得ました。（S・H）

社会福祉法人 仙台いのちの電話

事務局 〒981-8691 仙台北郵便局 私書箱26号
<https://sendai-inochi.jp.org>

発行人 飯岡 智
編集 仙台いのちの電話広報委員会 Tel.022-718-4401
印刷 株式会社 市瀬 Tel.022-232-3520